

市長定例記者会見資料



令和5年9月20日	
所 属	文化振興課
所属長	苅田 昭憲
電 話	06-6489-6385

尼崎城から幽玄の世界へ 「尼崎薪能」を4年ぶりに尼崎城で開催！

尼崎市は、長年親しまれている伝統芸能である薪能を、今年は尼崎城の野外特設舞台にて、中秋の名月である9月29日に開催いたします。尼崎城での開催は、令和3年9月当時にも予定していましたが新型コロナウイルスの拡大状況を踏まえ中止しておりました。そのため、今回は平成31年3月の尼崎城一般公開を記念して開催した令和元年9月以来、4年ぶりとなります。

能楽「船弁慶（ふなべんけい）」の上演の他、尼崎こども能楽教室で日々練習に励む地域の子どもたちによる仕舞もあります。

本市では、昭和55年から、大物川緑地公園野外能舞台において「尼崎薪能」が開催されており、能楽「船弁慶」ゆかりの地として親しまれています。

ぜひ、当日の様子など御取材いただきますようお願い申し上げます。



令和元年9月の尼崎城薪能
モニターでの補足説明あり

1 開催内容

- 公演名 第44回尼崎薪能
- 日 時 9月29日(金) 午後5時30分開演 雨天中止
- 会 場 尼崎城野外能舞台
- 入場料 無料
- 番 組 尼崎こども能楽教室 仕舞
仕舞「邯鄲（かんたん）」「井筒（いづつ）」「鐘之段（かねのだん）」「融（とおる）」
火入れ式
能楽「船弁慶」
附祝言（つけしゅうげん）
- 主 催 （公財）尼崎市文化振興財団・尼崎市・尼崎能楽会
- 協 賛 （一財）尼信地域振興財団・尼崎ロータリークラブ・尼崎文化協会
- 協 力 阪神尼崎駅周辺まちづくり共同企業体
- 後 援 （一社）あまがさき観光局

2 関連イベント

薪能開催に当たり下記期間中、能楽師所蔵の華やかで豪華な装束や道具等の展示を行います。

- 展 示 名 能楽の世界
- 開催期間 9月26日から10月1日まで
- 場 所 尼崎城 4階 ギャラリーゾーン
- 入 城 料 一般・学生 500 円、小学～高校生 250 円（団体・障害者等割引あり）
- 開城時間 午前9時から午後5時まで（最終入城は午後4時30分まで）

(次ページへ続く)

3 一般の方向けの問い合わせ先

「第44回尼崎薪能」及び展示「能楽の世界」については下記までお問い合わせください。

(公財) 尼崎市文化振興財団 事業課 電話 06-6487-0910 FAX 06-6482-3504

以 上

[Amagasaki Castle Takiginoh Performance]

“Funa Benkei”

日時 令和5年 9月29日 (金)

17:30開演 雨天中止

会場 尼崎城野外能舞台 <阪神尼崎駅徒歩5分>
兵庫県尼崎市北城内27

Friday September 29, 2023 5:30p.m-8:30p.m

混雑状況によっては、入場制限を行います。ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

入場
無料
Admission Free



お越しの際は、公共交通機関をご利用ください。

尼崎城への入城は有料となります。
(一般・学生500円、生徒・児童250円)

薪能当日は、尼崎城内で能衣装の展示を行っております。

午前9時～午後5時
(入城は午後4時30分まで)

尼崎薪能

第44回

〔番組〕

尼崎こども能楽教室

仕舞 邯鄲

井筒

鐘之段

融

火入れ式

能 『船弁慶』

前後之替



ウシマド写真工房提供

【お問い合わせ先】 公益財団法人 尼崎市文化振興財団 TEL.06-6487-0910 FAX.06-6482-3504

■主催=(公財) 尼崎市文化振興財団・尼崎市・尼崎能楽会 ■協賛=(一財) 尼信地域振興財団・尼崎ロータリークラブ・尼崎文化協会
■協力=阪神尼崎駅周辺まちづくり共同企業体 ■後援=(一社) あまがさき観光局

尼崎薪能番組

令和五年九月二十九日（金）午後五時三十分始め

尼崎こども能楽教室 仕舞

仕舞

邯鄲アト

梅若 堯之

井筒

赤井きよ子

鐘之段

山村 啓雄

融

梅若 基徳

火入れ式

能

南 潤之介

梅若 猶義

船弁慶

前後之替

喜多 雅人

間 善竹 忠亮

福王 知登

荒木

建作

赤井

啓三

守家

由訓

上田

慎也

附祝言

後見

大西 礼久
梅若 基徳

地謡

梅若雄一郎
上田 顕崇
笠田 祐樹

梅若 堯之
吉井 基晴
吉浪 壽晃

能【船弁慶】解説

あらすじ

平家追討に功績をあげた源義経でしたが、頼朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となります。義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ到着します。義経の愛妾、静も一行に伴って同道していましたが、女の身で困難な道のりをこれ以上進むことは難しく、弁慶の進言もあって、都に戻ることになりました。別れの宴の席で、静は舞を舞い、義経の未来を祈り、再会を願いながら、涙にくれて義経を見送ります。

静との別れを惜しみ、出発のためらう義経に、弁慶は強引に船出を命じます。すると、船が海上に出るや否や、突然暴風に見舞われ、波の上に、壇ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が姿を現しました。なかでも総大将であった平知盛の怨霊は、是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかります。弁慶は、数珠をもみ、必死に五大尊明王に祈祷します。その祈りの力によって、明け方に怨霊は調伏されて彼方の沖に消え、白波ばかりが残りました。

みどころ

誰もが知る義経や弁慶、静御前が登場するわかりやすい能で、弁慶を中心に物語はテンポよく進みます。この曲の前後のシテは、美しい白拍子と恐ろしい怨霊という、まったく異なった役柄となっています。優美さと勇壮さの対照で織りなされ、前場には優美な舞が、後場では薙刀を振るう荒々しい舞動が用意されており、謡い・囃子の強弱、緩急も全く異なったものとなります。変化に富む大変劇的な曲です。

また、舞台が大物の浦の船宿から大海原へ展開していく様子は、作り物の舟だけで見せていきます。ここは、アイの船頭の腕の見せ所で、船をこぎながらのワキとのやりとりや嵐が始まってからの棹さばきなど、本当に荒れ狂う海が見えるかのような所作が見られます。

Synopsis

Although Minamoto no Yoshitsune contributed greatly to the annihilation of the Heike clan, he was mistrusted by his brother, Minamoto no Yoritomo, and pursued. During his escape to the provinces west of Kyoto with his loyal followers, including Benkei, he arrives at the Daimotsu-no-ura Coast. His mistress, Shizuka, also accompanies them; however, it is difficult for a woman to follow along on such an arduous journey. Persuaded by Benkei, Yoshitsune decides have Shizuka return to Kyoto. At their farewell party, she is requested to perform her particularly skilful dance and then sees Yoshitsune off with tears.

Benkei encourages Yoshitsune, who is reluctant to depart due to his sorrow in separating from Shizuka. He forcefully gives the command to set sail. As soon as their boat sails away to the ocean, a storm suddenly hits the boat. The ghosts of the member of the Heike clan Yoshitsune killed at Dan-no-ura (the coastal area in present Shimonoseki City in Yamaguchi Prefecture), appear on the waves. Especially the vengeful ghost of Taira no Tomomori, who was the top general of the Heike clan, fiercely attacks Yoshitsune with his long-handled sword, making every effort to send Yoshitsune to the depths of the sea. Benkei rubs his Buddhist prayer beads and devotedly prays to the five great fierce deities. As the deities accept his prayer, at dawn the ghosts of the Heike clan are subdued and disappear below the horizon.

Highlight

This noh drama is easy to understand with involvement of popular characters, Yoshitsune, Benkei, and Lady Shizuka. Centered on Benkei, the story progresses at a good pace.

In this drama, an actor plays both *mae-shite*(first half lead part), a beautiful *shirabyōshi* (a female dancer dressed as a man), and *nochi-shite*(second half lead part), a monstrous vengeful spirit, which are totally different characters. In *maeba* (first half of the drama), the actor is required to dance, while in *nochiba*(second half of the drama), he has to dance while wielding a long-handled sword. In these two scenes he must show entirely different qualities in the *utai* and his movements.

Also, in this drama, the scenes changes from one at an inn on the Daimotsu-no-ura Coast to one on the sea. The drama expresses the shift with only a boat that is a small stage property. This is the scene where a boatman, performed by *ai-kyogen*, can show his performance skills. Through his conversations with *waki* and his skilful navigation with a pole in the storm, the audience can enjoy the performance just as if they are watching a real stormy sea.